

南砺市国土強靱化地域計画検討委員会

第3回 委員会 議事要旨

【日時】令和3年1月14日(木)14時00分～

【場所】南砺市役所 別館3階 大ホール

議事(1) 第2回委員会におけるご意見とその対応について

(説明資料①、地域計画素案)

- 委員長 : この説明資料①について、ご意見等があればお願いしたい。
- A委員 : 素案24ページの自主防災組織にかかる記述について。今年から旧利賀村は3分団を1つにしている。分団の再編成によって、組織率は事実上確保されており、時間をかけずともいずれ100%になる。組織率にこだわらなくても良いのではないか。それよりも実効性を伴う組織へと強化を図るべきではないか。
- 事務局 : 37あった分団で、小さな組織や遠隔地の組織を再編している。目標とするところは防災活動力の強化であり、この目標については、他の項目(推進方針等)で記載しているが、素案24ページの社会経済性の特色でも記載することとする。
- A委員 : 次に、ため池についてであるが、昨年末にため池が地震で決壊した場合のハザードマップを国や県の委託のもとにコンサルタントが住民説明を行っていたが、この説明が実態に合わない。事務的測量結果に基づいて試算したと思われるが、私には「泉沢ため池程度の小さなため池が決壊しても、小学校まで水が溢れるわけがない」と思われた。例えば桜ヶ池が決壊した際には慎重に考えるべきだが、役所は業者が持ってきたものを鵜呑みにすべきではないと思う。
- B委員 : 同じくため池に関連してであるが、KPIにも防災重点ため池の視点を盛り込んでもらいたい。防災重点ため池は559箇所が増えている。以前は160箇所くらいであった。東日本大震災や西日本豪雨においてため池の決壊に伴い人命を落としたケースもある。「まさか」に備えたケースを国・県・市で調査し、ハザードマップの作成を進めている。南砺市の防災重点ため池は46箇所あり、桜ヶ池などは有数のため池と言える。また、たとえ小さくとも住宅地に近ければ危険なため池もある。できればKPIにも入れて頂きたい。ため池の総数が多いのは富山県では氷見市であるが、南砺市におかれては、是非とも周知して頂きたい。長く住んでいる住民は知っていても、最近住み始めた住民や移住者にとっては「そんなところにため池が」ということを周知してもらうことが必要である。
- 委員長 : ため池がどこにあるのか、先ず知ってもらうことから始めることが大切である。ハザードマップについては素案への掲載を再検討して頂きたい。
- A委員 : 素案の81ページにため池にかかる記述があるが、ハザードマップについ

でも記載してはどうか。

- 事務局 : 素案では、74ページにハザードマップについて記載している。ため池があること、浸水想定区域であることを当該地域に認識して頂くことは重要であると考えている。
- A委員 : 地域住民と言っても市街地に住む市民はため池の場所すら知らないこともある。
- B委員 : 素案44ページに洪水ハザードマップが掲載されているが、ため池ハザードマップも掲載して頂きたい。
- 委員長 : 情報周知に関して、小学校や幼稚園にはこれらの情報を提供しているか。私も子供の頃に落ちたことがあるが、命を落とすこともある。本日頂いたご意見を反映させて頂きたい。
- C委員 : ハザードマップの住民説明会はどのような規模で開催したのか。今の話を聞くと、もう少し広い範囲の住民に周知すべきではないか。
- 事務局 : コロナ禍ということもあり、住民説明会は限られた人数で開催した。このため、先ず浸水被害想定区域内の住民へ説明を行った。小学校では児童へ市から直接説明していないが配布している。今後は市のホームページへの掲載に加え、各戸配布も考えている。
- C委員 : 学校等への配布のみならず、保護者を含めた説明など、もう少し考えてほしい。
- 事務局 : 素案24ページにも関連するが、危険性の認識を共有することや自主防災組織の強化について、地域づくり協会の集まりでお話ししたい。また市の出前講座も活用して対応したい。
- D委員 : 素案36ページに「既存ダムの洪水調節機能の強化」とあるが、機能があれば「機能強化」と言えるが、機能の有無は不透明なので、要確認のうえ言い回しを変えてはどうか。
- 事務局 : もう1点、素案44ページに「用排水路の溢水（いっすい）等」との記載があるが、これは堤防がない場合の表記であり、堤防があれば「越水」となる。国土交通省は最近「溢水（いっすい）」という言葉を使わなくなった。一般の人にも解りやすい文言にしてはどうか。
- 事務局 : ご指摘の内容について、ご指導を仰ぎながら調整させて頂く。
- 委員長 : 今のご指摘の内容について、宜しくご対応願いたい。

議事（2） 重点化すべきリスクシナリオ、重要業績指標（KPI）の設定と、PDCAサイクルによる見直し

（説明資料①、地域計画素案）

- 委員長 : 事務局の説明について意見等があればお願いしたい。
- B委員 : KPIの中身について伺います。
- リスクシナリオ7-3にため池耐震調査率が挙げられているが、調査をするだけではリスクが下がるわけではない。ハザードマップを踏まえた地域

住民への周知など、より適切な指標を設定してもらいたい。

リスクシナリオ10-1について、祭りなどの地域の行事が維持できていない。農業は日本型直接支払制度を活用して支援している。南砺市は頑張っているほうである。今の指標（住み続けたいと思う市民の割合）はアンケートの内容を指標にしていると思うが、集落の取組活動の維持・強化に関する指標を入れられないか。

- 事務局 : リスクシナリオ7-3の指標については、担当課と調整する。
リスクシナリオ10-1の指標については、総合計画のアンケートに基づき記載した。獅子舞等も活発であるし、担当課と相談させて頂きたい。
- 委員長
事務局 : 地域活力については、応援市民という制度もあったと記憶している。
: 応援市民の取組みは現在も継続している。南砺市のアピールが主であるが、災害時には応援市民による支援も必要となる。
- A委員 : KPIは今回初めて見たが、指標のとり方を工夫できないか。
例えばリスクシナリオ1-5について、アンケート結果で計れるものなのか。
リスクシナリオ2-2について、地域が孤立した時に自主防災組織だけで自力で頑張れというのか。道路が決壊した時には、それこそ自衛隊に助けてもらわなければならないのではないか。
リスクシナリオ2-6について、疫病や感染症については病院の力を借りることになるのであって、総合防災訓練で解決するものなのか。
リスクシナリオ5-1について、今回の大雪でも実感したが、サプライチェーンが寸断された際にICが1つ増えたら解決するのか。
リスクシナリオ5-3について、食料供給が停滞した際に物流ではなく圃場の整備から始めることが、果たしてなじむのか。
リスクシナリオ6-4について、陸上交通が機能停止に陥った場合に消融雪路線の延長で解決するのか。
リスクシナリオと指標がリンクしていない。もう一度内部で話し合っほしい。
- 事務局 : 担当各課と再度調整する。
- 委員長 : やや無理のある指標もあるので、再検討願いたい。1つのシナリオに対する指標は複数でも良い。
- C委員 : 2-7について、福祉避難所は対象者が限られている避難所である。福祉避難所が増えても、そこに入れない一般住民の避難生活環境の問題が解決するわけではないと思う。
- 委員長 : 適切な指標に再整理して頂きたい。
- D委員 : リスクシナリオの重点化について、市の役割の大きさという項目において要望事項は0点となっているが、何もしていないわけではない（要望はしている）ので、0点と1点の間であるとか、何かしらの配点を検討できないか。
KPIについて、施策ごとに設定されている詳細なリストがあれば示して

頂きたい。

K P I の内容について2点。まず、リスクシナリオ4-2に「人の割合」となっているが、他の項目（リスクシナリオ1-5や10-1）では「市民の割合」となっている。ここでいう「人」は「市民」か、南砺市以外の方も含むのか。含まないのであれば「市民」で統一することが望ましい。次に5-3について。圃場整備率の分母は「要整備箇所」か「全体」なのか。今後、P D C A サイクルを回していくにあたって、分母の問題は必ず出てくると思われる。

- 事務局 : 圃場整備率に関する分母は耕地面積である。
- D委員 : リスクシナリオ2-5について、市立病院のBCP策定率が現況50%とあるが、策定済みの病院が1/2という理解で良いか。この場合、数が少ないので、%表記が馴染むか検討して頂きたい。
- 委員長 : 他にご意見はあるか。P D C A サイクルは5年単位で回すのか。1年単位や数年単位で回していく予定か。
- 事務局 : 各指標に対するご指摘について、市の総合計画で用いた様々な指標の活用を試みたが、うまくマッチする指標がなかったというのが実情である。再度検討する。
- P D C A サイクルは総合計画と同様に毎年見直す予定である。
- 委員長 : P D C A サイクルのC（チェック）の部分は、担当課が行うのか、それとも総務課で行うのか。
- 事務局 : 担当課でチェックしたものを総務課で取りまとめる予定である。

議事3 その他

（説明資料3）

- 委員長 : 事務局説明の通り、今後はタイトなスケジュールとなっている。事務局で作成した修正案については、委員長・副委員長両名が皆を代表して確認・了承するという形で宜しいか。

<一同了承>

- 委員長 : その他、全体を通してご意見があればお願いしたい。
- E委員 : 今後のパブリックコメント実施にあたり申し上げる。先ず生命を守ること、安心・安全であること、主役は市民であること、これらの実現のためには市民ひとりひとりの理解が必須であるため、周知等、宜しく願いたい。
- F委員 : 国土強靱化は命を守ることが至上命題である。国・県・市の意思疎通や情報共有はもちろん、市民に情報がしっかり伝わること、市民の防災意識の構築が重要である。
- 委員長 : 市民・国・県・市それぞれが共通の認識をもって行動することが重要である。以上をもって議事を終了する。

以上